

詩誌『亜』復刻の意義

倉 田 紘 文

一 史的意義

『亜』は大正十三年十一月から昭和二年十二月にかけて大連市（現在は中国の旅大市）で発行された詩誌である。創刊同人は安西冬衛、北川冬彦、富田 充、城所英一の四人であり、第三号から滝口武士、その後、屋形亀之助や三好達治が参加している。

短詩運動を推しすすめ、また新散文詩運動を起こした『亜』は、後にモダニズムとアバンギャルドの文学集団として昭和初期の詩壇を代表した『詩と詩論』の先駆的役割を果たしたと言われている。終刊に際して寄稿された「亜の回想」には、堀口 大学・与謝野寛・高村光太郎・河井醉茗・草野心平・梶井基次郎等、日本詩壇を背負って立った人達の名が連ねられている。いかに当時反響が大きかったかが知られる。

しかし、この歴史的意義を持ち、現代詩史を語るとき必ずと

りあげられる『亜』ではあるが、実際にはこれまで研究者の目に直接ふれることはなかった。

同人がつぎつぎに他界されて、“幻の詩誌”とも言われる『亜』の原本を入手することも困難になった今日、こうして本学国文学科研究室より全巻復刻したことは、極めて大きな意義をもつものと思う。

二 復刻版『亜』の概要

○ 原本

同人の滝口武士氏（大分県東国東郡武蔵町在住）所蔵のもの。

○ 発行部数及び誌形

全三十五冊（大正十三年十一月～昭和二年十二月）各八

十部。A 四版・一冊平均二十ページ。

○ 『亜』収録主要詩人及び作品数

滝口 武士	149 篇
安西 冬衛	145 篇
尾形龜之助	27 篇
北川 冬彦	25 篇
三好 達治	8 篇
春山 行夫	4 篇

(以下略)

○『亜』収録詩の主な詩型

二行詩	60 篇
散文詩	58 篇
三行詩	43 篇
一行詩	33 篇

(以下略)

○定価 二〇、〇〇〇円(実費)

○発行 別府大学文学部国文学科研究室